

「愛顔(えがお)あふれる愛媛づくり」

平成30年度「知事とみんなの愛顔(えがお)でトーク」知事講話

開催日時：30.8.7(火)

開催場所：リビエラ東京

ふるさと愛媛を離れて、東京でがんばっていることと思いますけれども、今、大学生活ですからいろいろなことを経験しながら、将来自分はどのような道を歩んでいくのか、あるいはもう決められている方もいらっしゃると思います。自分探しの最中であると思います。そんな中でふるさとのことについてもなかなか知る機会はないと思いますので、愛媛県全体についてお知らせできればと思いますし、みなさんから愛媛県がこんな風にしたらいいいのではないかという意見も聞けたらと思います。

僕自身は、みなさんと同じように大学は東京にいましたけれど、4年間振り返ってみると勉強した記憶はあまりなく、体育会系で今は旬な、当時はとてもマイナーなバドミントンの選手でした。ラグランを着てトレパンをはいて、1年のときは坊主頭で4年間なにをしていたのだろうという大学生活でしたが、就職をするときに高校時代に影響を受けた「竜馬がゆく」という小説に惹かれてとにかく海の向こうへ行ってみたいということで、総合商社にチャレンジし、幸い入社することができました。石油のビジネスを通じて海外、特に中東などから油を日本に持ってくる輸入の仕事や三国間貿易とって外国間のビジネスを成立させるようなことや、その後は、国内販売などを経験し5年間くらいやっていました。海外駐在の話があり、そこへ行ってしまうと7年くらい帰って来れないという状況だったので、迷いに迷い故郷に帰る決断をし、試練もありましたが、その後は政治の道を歩んできました。7年ほど前から今の仕事をさせていただいています。

【平成30年7月豪雨】

冒頭に今回の災害の状況説明をさせていただきます。お手元に写真を配らせていただきました。これは、先日、天皇陛下が被災状況を御心配頂いているということで説明に伺ったときに使用した写真4枚です。1枚目は、松山市の怒和島で起こった土砂災害で小学生2人とお母さんが亡くなりました。土砂災害の脅威を見せつけられた状況でした。次は、大洲市の写真で真ん中に横長の島のようなものがありますが、これが本来は河川で、河川から水が氾濫しまして中心部の田んぼが浸水しています。岡山県の倉敷の真備町と同じ状況で、町全体が水に浸かっているという状況です。次が西予市の野村町の状況で、見ると屋根しか見えない中、2階でもダメで屋根からボートで救出するという惨憺たる状況でした。完全に町の中心部が水に浸かってしまっている状況です。次は、宇和島の吉田町の写真で、山がノミで削られたような土砂崩れで、この下に住居が埋もれており、削られた山の部分は、良質なみかん畑で全滅の状況です。ここは、5年くらいかけてどう復興していくかというプランを考えなければなりません。

今回、災害が起こったときに続々と情報が入ってきました。普段、松山市にいますが、大変なことが起こっているということは、頭の中では理解できていたのですが、現地を見ていないので、肌感覚でその深刻さを実感できていないとわかりました。そこで、被

災3日目に東京の方にもわかってもらいたいということで、総理大臣のところへ愛媛だけではなく、西日本一帯で大変なことが起こっていると話をし、緊張感を持ってやっていただきたいと伝え、国からのバックアップの担保をとって、愛媛県でもできる限りのことをやるということで災害対策本部を立ち上げました。当初、「町を守る」ということはどういうことかという議論を皆に伝えました。まず、「人を守る」、「生活を守る」、「産業を守る」この3つが成り立って地域は守れるだろうということ共有して、当初の第一の目標を「人命救助」、「避難所、生活環境の整備」、「水の確保」、「住居の確保」の4つを第一目標として指示をさせてもらいました。愛媛県では、26名の方が命をなくしてしまいました。2名の方が行方不明だったのですが、さっきメールが入ってきて1名の方が見つかりましたが、残念ながら犠牲者が27名ということになりました。今回非常に苦労したのは、水がいかにかに尊いものなのかということです。宇和島市の吉田町と三間町、西予市の野村町、大洲市が断水を余儀なくされました。大洲市と西予市は、浄水場は残っていたので、修繕し1週間後に水の確保はでき、各家庭に水を供給する体制ができたので長丁場な話にはなりません。問題は宇和島市の吉田町と三間町でした。ここは、浄水場自体が被害を受けたので、約1万5,000人以上、6,000世帯以上の方が約1カ月、水が使えない状態でした。水が出ないと飲料水、お風呂、洗濯、清掃活動、何もできません。あたりまえにできていたことが、できなくなりました。特に暑い日が続いたので、家屋の土砂や瓦礫を除いても水で清掃しないと、消毒ができません。消毒ができないと病気が蔓延する恐れがあるという状況との戦いでありました。ここをどうやってカバーしたかと言いますと、自衛隊、各都道府県、市町村が持っている給水車を大量に送ってもらい各地区ごとに水を配ってまわるということをして1カ月続けて今日に至っています。これにより飲み水と多少の清掃などの水は、カバーできました。ただ、お風呂に入れないので、自衛隊に依頼して、北海道や香川県から1度に10人は入れる簡易風呂を4施設くらい持ってきてもらって、被災5日目から住民の方にお風呂の提供を続けています。浄水場の建設には何か月もかかるということで、水がないと何もできないということで、知恵を絞って、ろ過機とそれを動かす配電盤、ポンプがあれば代替施設として水が供給できるのではないかということになりました。しかしながら、ろ過機というのは巨大機器で、またろ過機をこれから発注して作ってもらっても数カ月もかかるということになってどうしようということになりました。悩んでいたところ、メーカーに発注して在庫になっているろ過機が茨城県のメーカーの工場にあるということがわかりました。これは、東京都がオリンピックのカヌー競技場用に発注したもので、東京都の同意を得て、このろ過機を吉田町にもってくることにしました。配電盤は、国が急ピッチで用意をしてくれました。ポンプは、以前勤めていた会社の2年先輩が、ポンプ会社の方で最優先事項として社員を送りこんでくれました。いろいろな方の力を借りたんですが、最後は、ろ過機を茨城県から運ぶとなると巨大な機器なので各都道府県の許可をとって運ぶと30日以上かかることがわかり、国に動いてもらって自衛隊、警察の協力を得て正味2日間で運ぶことができました。水の供給は、9月以降になると見込まれていましたが、一昨日浄水施設が完成し、蛇口から水が出たときは住民のみなさんから歓喜の声が上がったわけで、第一段階の最重要課題をようやく乗り越えたという段階です。

住居の方は、急ピッチで家を失った方の仮設住宅を200~300戸、空き家の活用ということで500世帯くらいを住める環境を用意することが今の課題で、今月末には仮設住宅は完成していきますので、徐々に入居していただく体制がとれていきます。

第一ステージがクリアすると、地域や産業の復興になります。産業につきましては、工場、商店街の再生にはお金が必要ということで国に交渉して、岡山県、広島県、愛媛県がグループ補助制度の適用範囲となりました。

農業は、多大な被害で愛媛県だけで第1次産業の被害額が500億円になっており、これをどうカバーするかということは息の長い取組みになります。今年の収穫は難しいけれども来年収穫ができそうではないかというところもある、2年かかるのではないかというところもある、ひどいところは、一気に区画整理をして農地をつくり直すとなると5年はかかります。5年間収入がなくなるので、農業関係者と県とで何か考えないといけないと思っています。こういう状況なので、みなさんにもそれぞれの立場で愛媛のために役割を担っていただければなあと思っています。

【参加者に提供した西予市明浜町産みかんジュース】

このみかんジュースは、西予市明浜町産のジュースです。私ごとびきりおいしいと思っている明浜産の12度の糖度を持ったジュースで、「天果の恵み」と名前をつけているので飲んでみてください。どこの県にも負けない愛媛県のみかんジュースですのでぜひ宣伝してください。

【愛媛県の産業】

今日は若いみなさんなので、愛媛県の産業の話をしたと思います。

愛媛県は、東予地域、中予地域、南予地域と分かれています。みなさんも御存知かもしれませんが、東予は第2次産業、ものづくり産業が盛んな地域となっております。特徴的なのは四国中央市、新居浜市、今治市、西条市それぞれ産業構造が違います。

四国中央市は、紙産業の集積地で、新聞紙、ティッシュペーパー、紙おむつなど、それから新しい紙素材、特に今、研究が進んでいるのは、セルロースナノファイバーといって、紙で作るのだけでも鉄よりも強くカーボンよりも軽いです。鉄の6倍の強度で、鉄の半分の重さであると言われていています。これに匹敵するものが紙でできるということがわかり、地元の企業、大学、愛媛県で研究をおこなっています。新しい素材として将来の稼ぎ頭になるということで、研究をしています。大きな会社は、大王製紙、ユニ・チャーム、福助工業など。多くの紙メーカーが集積しています。人口は9万人弱であるが年間工業生産高6,600億円となっています。ちなみに高知県は、全県で5,700億円です。9万人弱で高知県を上回る生産額を誇る工業地帯になっています。新居浜市は、歴史の古い工業都市で、数百年前、徳川幕府の時代に、銅山があることがわかり、住友家により銅山の開発が300年に渡って行われてきました。これが明治の時代になり、近代化の波が押し寄せて株式会社という形態が日本の社会に持ち込まれて、住友家は動きまして、いくつかの株式会社を作りました。まず作ったのは銅を売るために作った住友金属鉱山、鉱石を掘り起こすと亜硫酸ガスが発生するので、これを処理するために化学技術が必要なので住友化学という会社が作られました。掘った鉱石を運ぶために、住友重機械工業という会社ができました。銅山を開発するうちに、山が丸裸になってしまうという問題を100年も前から問題として環境問題に目を向けて、現在では、世界に羽ばたいている住友林業という会社ができました。住友グループは、愛媛で誕生しています。新居浜市は、住友の町で、高い技術を持ったものづくりの会社が集まっているのが新居浜市の特色です。新居浜市も、12万人くらい

の人口ですが、新居浜市1市で年間工業生産高7,000億円と四国中央市より多くなっています。そのとなり西条市は、西日本最高峰1,982メートルの石鎚山から流れる名水を活用しようとエレクトロニクス産業や食品産業、造船関係の工場が連立しています。クラレは、携帯電話やパソコンの液晶偏光フィルムを製造しています。世界で6割のシェアを持っているので、非常に重要な製造拠点になっています。四国唯一のビール工場であるアサヒビールがあります。水を活用する工場が集積しているのが特徴になります。西条市も人口11万くらいですが、工業生産高が7,200億円くらいとなっており、新居浜市以上となっています。

今治市は、造船、海運、タオルの町で、特に造船では、日本最大規模の造船会社の今治造船があり、十数社のそれぞれ得意分野の異なる造船会社があります。今治造船は、大型貨物船、大型タンカーを得意としていて、世界最大の貨物船30万トンくらいの貨物船は、今治造船が得意としている船で、今は、世界最大のLNG船製造を行っています。それにまつわるようなたとえば船用の冷房器具やエレベーターなどが得意の会社などが集積しています。他の造船会社は、3万トンくらいの化学船を得意とする会社や5万トンくらいの貨物船が得意だったりします。得意分野を生かして行っているのが、今治市の造船業の特色です。日本の外航海運船の35%くらいが今治市に本社を置いている海運会社所有なので、モノをつくっているわけではないのでわかりにくいんですが、その取扱金額は、すさまじいものになっています。今治市の人口は16万人ですが工業生産額は8,500億円ということで、さっきの3市を上回る生産額となっています。

それぞれの市には、こういったメインの産業が異なっていますが、それを支える知られざる優良企業がたくさんあるというのが工業地域の特徴となっています。

対して南予なんですが、工業群は少ないですが、なんとといっても第1次産業の宝庫です。

愛媛県の第1次産業で、生産量が日本一なのは、かんきつです。温州みかんだけであると和歌山県なのですが、愛媛県の特色は40種類以上の品種を生産して多品種、季節を超えて毎月何らかのかんきつが供給できるという周年供給体制ができている唯一の県です。例えば9月、10月は早生みかん、11月になると温州みかん、12月になると紅まどんな、1月になるといよかん、2月になると甘平、3月になるとせとか、清見、4、5月になると愛南ゴールド、河内晩柑、季節によって味も変わる、品種も変わるといった年間を通して供給できるという点が強みです。また、常に研究が続けられており、紅まどんなを超えるような品種の開発も行っているところです。ちなみに紅まどんなは、昨年、新宿伊勢丹か高島屋で1個1,900円で販売して完売しました。これは、愛媛産のかんきつの強みであると思います。意外と知られていないのがキウイフルーツで、生産量は全国1位です。ヘイワード、ゴールド・キウイ、レインボー・キウイなどいろんな種類を生産していますが、特にニュージーランドの大手ゼスプリ社の日本の栽培権利は8割を愛媛県が保有しています。もう1つの全国1位は、海面養殖業、タイやブリの輸出攻勢をかけています。今、多品種生産拡大中です。真珠といえば三重県、兵庫県神戸が浮かんできますが、真珠の母貝は9割が愛媛県、真珠の珠自体は4割が宇和島市が中心で圧倒的な生産量となっています。あとは、高級木材のヒノキです。ヒノキと言えば木曾檜が有名ですが、ヒノキの生産量も愛媛県が全国1位です。愛媛県の第1次産業については、南予にいと比較的知っているとされるのですが東予にいと触れる機会がないと思います。愛媛県は、非常に多岐にわたって生産・供給している県であるということを経営で宣伝してもらいたいなあと

ます。

そういう産業が下支えになって、加工分野においてもマルトモやヤマキなどの業務用の製品を作っている会社もたくさんあります。第1次産業に強いのが南予の特徴となっています。

中予の松山は、第3次産業が中心のエリアとなっています。松山の人口が四国の市町村で最大ということでメーカーもたくさんあり、第2次産業の分野では、中小型ボイラーメーカーである三浦工業、農機具メーカーでベスト3に入る井関農機も愛媛で誕生した会社です。本社ではありませんが、東レ松前工場、帝人の松山工場があります。この2工場は、カーボンファイバーの生産拠点となっています。東レのカーボン工場は、ボーイング 787の機体に採用されていて、フル操業状態で、またこれを支える中小企業があり工業もそこに、松山市は、あくまで第3次産業が中心なので、工業生産高になると50万都市ではあるが3,700億円程度になっています。工業生産額は特化した会社がかんばっているという状況です。観光や商業が中心です。道後温泉を中心に四国で最もにぎわいのあるエリアですし、第3次産業ならではのIT企業であるとかデータ処理であるとかそういった拠点がどんどんできてきているのも松山市の特色でもあります。

ざっと愛媛県の産業構造をお話ししましたが、今日は、『スゴ技』という、ものづくり産業を中心としたデータベースをお配りしました。興味があったらぜひ見てもらったらなあと思います。10ページ、松山市に本社のある株式会社タケチと言う会社は、ゴムの加工品大手メーカーです。例えば自動車用のゴム製品の部品などが得意で、トヨタなどが取引先になっています。東京ドームのエアは全部この会社が請け負って制作しています。13ページ、株式会社コスにじゅういちは、大きな会社ではありませんが最先端の金属加工の技術を持っていて、小惑星探査機「はやぶさ」の部品の製造に使用されています。株式会社コスモ精機は、カーボンファイバーを使ったダーツの矢を作っていて、日本のほとんどのダーツを作っています。16ページ、株式会社中央ステンレスは、四国中央市にある会社ですが東京スカイツリーに使われているサッシはすべてこの会社が製造していて技術を持っています。22ページ、株式会社曾我部鐵工所は、名前を聞いてもわからないかもしれませんが、歯車の減速機を作っています。これは、建設機械のコンボやクレーンの根っこを回す減速部品を作っていて、世界の油圧シャベルで使用する減速機シェアの3割を持っている会社です。取引先としては、小松製作所やアメリカのキャタピラーなどと取引している会社です。あとは、造船や繊維、タオルなどから派生したいろいろなメーカーがあります。33ページ、株式会社カネコは、パーティなどで使うクラッカーを製造しており、この会社ともう1社で日本のシェアの7割以上を占めています。パーティのクラッカーを見たら、愛媛からきたのだなと思ってもらってけっこうです。こういった知られざる会社も愛媛にたくさんあり、将来を考えるとときに愛媛も視野に入れてもらえたらなあと思いますので、今日はあえてご紹介させていただきました。